

いかにして私は50パーセント日本人になったか
ヴォイチェフ・コルヴィン - ピョートルロフスキー



あなたには二つ選択肢があります。家でのんびりテレビを見ながらビールをぐびぐび飲む、というのと、小林道場で体をいじめ抜くという道です。どちらを選ぶかはあなたの自由です。私はテレビ無しの方を選びました。

三年前、私の合気道がとても「パワフル」で「美しく」また「簡単」だった時、自問自答しました。同じことを私より小さい人に教えることはできるか、と。答えは「不可能」でした。それをきっかけに私は自分の技を完全に变えることを決心しました。ポーランドの他の合気道組織の講習会や合宿に参加し自分のどこがいけないのかを理解しようとしてしました。「先生、うまくいきません」という名前の朝稽古を指導していたこともありましたが、そこでは私自身の多くの技の間違いや姿勢の悪さを確認できました。

そうすると次に何をすべきかはっきりしてきました。日本に行き技の詳しいところや精神をこの目で見てくる、ということです。しかし、現実にはそれは難しい事でした。家族、仕事、その他諸々の事が、私の計画の前に立ちはだかりました。東日本大震災、津波、福島原発の事故等がそれに追い打ちをかけました。私の周りの人々は皆、日本に行ってはだめだと言います。

しかし、私は日本に行くためなら死んでもいいと覚悟を決めていました。そしてついに、友人達、妻（長いこと留守にしてごめんね）、小林先生のおかげで、ここ日本に来ることが出来ました。

今、この時、私は帰国へのカウントダウンをしているところですが、それと同時に納豆をはじめとした、日本の多くの物や人々と別れることになると思うと、悲しみがこみ上げてきます。

実は私は三年前にも日本に来たことがあります。その小林道場の四十周年のお祝いの時に私に会った人たちは私に今とは違った印象を受けていたと思います。

今では私の事を正しく理解して、誰も私のせいでがっかりした思いを感じていないことと願いますが、そうです、私はカラオケが大好きです。と言っても、正直ウォッカの様な何か素晴らしい物の後でないと、歌いづらい、というのも事実です。

道場長の奥様、弘明先生の奥様、道場長、弘明先生（すいません。ポーランド式にレディファーストです）、最高の思い出は全て私の胸の中にあり、私のためにして下さったさまざまなことへの感謝の気持ちはここではとても書き表すことはできません。

増田先生、小柳先生、幹雄先生、内野さんもありがとう。彼らからは日本人としての作法を色々と教えてくれました。ポーランドに帰ったら続けるのは不可能ですが、とにかく日本人のように振舞ってみます。



水前会や木曜日の午前の稽古での女性陣にも感謝します。稽古を楽しむ全く新しいスタイルを見せてもらいました。自分の国でも同じような「賑やかな」クラスを始めることができればいいなと思います。

花岡さん、秋葉さん、宇佐さんにも感謝します。私のTシャツを花岡さんは気に入ってくれたでしょうか。

森田さんの家では茶道の稽古にも参加させて頂きました。彼女にはパーティーを盛り上げる才能があります。

フランク・ザッパファンの小林さん、楽しい会話と音楽のひと時をありがとう。

松雪さん、審査の前日に私の特別なウォッカを飲んだのはあなただけで、四段の審査を合格したのもあなただけでした。私がとてもハッピーなのがなぜだか分りますよね。

さて、この日本滞在中も終わりに近づくと、内弟子期間の残りの日数を数えるようになりました。最初の10週目までは何とか耐えましたが、11週目は私の人生の中で最悪の日々でした。医者によると、私は体に疲れがたまっているだけで健康だ、ということでした。何だかんだで、稽古を休むことにならず、ほっとしています。

あと、忘れられないのは、先生方のための金曜日の朝食の用意については、かなり奮闘した、ということです。肉と野菜を切り、サンドイッチ、サラダ、そしてデザートを用意するために、要領良く、手際良く、順序良く、キッチンの中で作業しなければなりません。時間がかかりすぎれば先生方の腹の虫が鳴き始めます。この点に関して色々手伝ってくれた宏美にはとても感謝しています（剣杖の稽古にも付き合ってくれてありがとう）。最後の金曜日の最後の味噌汁を先生が口にします、そして一言「ヴォイテック、あなたは50パーセント日本人になれたね。」その一言で日本での数カ月の修行が報われました。

そうそう、笠原先生、あなたの助けなしでは私の道場での生活はもっと困難なものになっていたことでしょう。道場の掃除や色々な準備の事を教えてくれてありがとう。

皆さん、それではおやすみなさい。こうして日本での最後の夜を幸せな気持ちで過ごせたのも皆さんのおかげです。

私はヴォイテックです。アリガトゴザイマシタ！